

親切活動の取組について

学校名 高岡市立南星中学校

生徒数 485名

1 親切活動の取組の紹介

(1) ふれあい食堂のボランティア参加

生徒会執行部と有志の生徒で、ふれあい食堂での食事提供のボランティアに参加した。この活動では、地域の子ども食堂で、地域の方々と共に食事作りを協力して行い、お年寄りや子供たちに温かい食事を提供した。ボランティア活動を通じて、地域の人々との交流が深まり、貴重な経験をすることができた。この活動を通じて、食事提供だけでなく、地域社会との結びつきやコミュニケーションの大切さを実感した。今後も地域とのつながりを大切にし、社会貢献を続けていきたい。



(2) 広げる「いいね」運動

生徒会執行部は「One～心をついに、繋ごう未来へ～」のスローガンのもと各委員会と協力し、広げる「いいね」運動を行った。その取組の一環として、校内に「いいねポスト」を設置し全校生徒の日頃の生活でいいねの感じたことをポストに投函してもらった。また、学習発表会の前には全校生徒に前期の生徒会活動で感じたいいねを書いてもらい、それらを体育館の壁に掲示した。この活動を通して、生徒たちの心の繋がりや絆の深まりを実感し、学校全体に明るい雰囲気広がった。



(3) Face to Face! 挨拶運動

クラスごとに日を決め、生徒玄関において挨拶運動を行った。早朝から登校する生徒に対して、校紀委員が中心となり、心地よい挨拶を届けた。この活動により、気持ちのよい1日のスタートをきることができた。同時に、クラスで協力し朝早くから活動することにより、団結力を高めることができた。挨拶運動は、朝の心地よい風に吹かれる中、多くの生徒・教員と心を通わせることができるとてもよい機会となった。今後も、各委員会や地域と連携し、よい影響を与えられるような活動を継続していきたい。

2 親切運動に取り組んで

○ 取組の成果

ふれあい食堂のボランティアや挨拶運動など、生徒会として以前から取り組んでいる活動をより良い活動になるよう考えて実施することができた。地域の方とともに活動することで、地域への理解と繋がりが生まれた。また、広げる「いいね」運動では、生徒間で心が温まる言動を共有したことにより、学校内が明るい雰囲気に包まれた。

○ 課題と今後に向けて

時代が移り行く中で、何が必要なのか、活動の本質を常に問い続けながらよりよい活動になるように向上心をもって活動していく必要がある。